季節の園藝

草苺

東京女高師　大岩金

透明な硝子の器にルビーの樣な苺は晩春から初夏の候に私共の味覺をそゝるに充分なものであります。其の靜物を得る爲には恰度本月の末頃苗を定植する時期になりますことと、特に苺は新鮮な果實を尊ぶと云ふ點　於て自家栽培卽ち家庭園藝蔬菜としての一つでありますからここに家庭園藝としての苺の栽培方法に就きまして略記することに致しました。

實は突然に投稿を求められましたので、うめくさに迄とも思ひ且つは婦人園藝趣味振興の一助にもと自ら理屈をつくり粗製ながら寸暇を得て御求めに應じました。どうぞ皆樣御諒察下さいませ。

一、苗の作り方

便宜上苗の作り方及外二、三に項を分ち順をおほて述べます。

草苺の苗は殊に作らなくても出來るものではありますが、矢張り作ると云ふ氣持で作つた苗が良しい。御承知の通り、五月頃實が出來てから後盛に走蔓（ランナー）を發生して放置しおきますと苺畑は地表が殆ど見えない樣になります。それは走蔓から新株が出來た爲であります。新株は卽ち苗であります。此の苗を得るに當りましては、先づ苺畑の株間を充分耕耡し施肥しておくのであります。さうしておけば走蔓は、その軟かくて肥え

た土壌へ根を下して發育の良好な新株が出來るのであります。此の際走蔓を植土を入れた鉢に引いて來て根を出させますと直ちに鉢植の新株が得られるのであります。

そこで走蔓から出來る新株は非常に多數でありますが、全部が苗として適當なものではありません。普通には親株の最も近くに出來た新株が最も良いものとされて居ります。而して地上部の强大なことは無論でありますが、地下部卽ち根の發育も共に良好なことが必要であります。特に根が針金樣に强直で分岐の少ないものは採用致しません。その樣な苗を親株から六月中に切りとりまして、比較的濕潤で强光が避けられる樣な場所へ假植します。その時根部は約三分一を切除して、定植の際に先分に發根した苗を得る樣にします。假植する時の苗の間隔は普通五寸四方位であります。大規模の場合に於きましては前述しました樣に親株に充分施肥灌水しまして、苗を得ましたものを、假植することなく、直ちに本畑に定植する樣であります。

二、定植後の栽培法

果實を採收する目的で植付けるものを定植と云ふことに致します。苗を定植しますには、其の時期が苺生產上に相當重要な關係のあるものゝ樣であります。卽ち暑氣の去らない晩夏でありますと高溫と乾燥の爲に枯死する場合がありまして、翌年の收量を減じます。それで普通には十月下旬頃の氣候を撰ぶ樣であります。要しますに或る程度迄冷凉の氣候が宜しいのであります。

定植します場所は特に撰り好みもありませんが壤土が最も良いことは無論であります。あまり乾燥の土地或は强い光線の直射するのは好みません。多少濕潤で日陰のある位がよろこばれる樣であります。

定植します土地は充分叮嚀に耕耡して基肥としまして草木灰、菜種油粕及堆肥（肥料としての効用があるばかりでなく濕潤を保つにも役立つものであります。これを造りますには除草等の際取捨てた雜草を堆積したものを充分腐熟させましたものので結構であります。）を好く混合して施しまして畦幅二尺乃至二尺五寸とし株間を八寸乃至一尺位に致します。

追肥としましては、油粕を好く腐熟させましたものを充分稀釋したものを定植後一週間位にして一回施します。第二回目には前回と同樣の油粕に過燐酸石灰を加へたものを施します。その後生育の狀態に依りまして窒素肥料を一二回施しまして大體三月下旬頃に及びます。尙過燐酸石灰は苺の味をよくする役に立ちますから他の肥料と共に充分施用する必要がありますし、油粕の類は過用しますと莖葉のみ茂りまして結實を見ない樣なことになりますから特に注意を要します。

苺は寒氣に對しましては割合に强健でありますが、それでもあまり强烈な寒氣の來る場合には防寒と乾燥を防じために堆肥とか、籾とか、かれた雜草等を撒布しておくのもよい樣であります。それで普通苺は十二月頃迄は多少生育するのを見まして、小さな花を付ける事がありますが結實することはありません。そこで又三月上旬頃溫暖な氣候になりますと莖等が發育し始めまして開花しますがやはり結實しませんで四月に入つて開花しましたものは結實を見ますから、株間へ藁等を敷きまして、果實に土が附着せぬ樣に手配します。若し敷物をしませんで實に土砂がつきますと、實は腐敗し易くなりますし、品質も劣等になります。又蟻の巢になつて赤い笘の實が土色になつてしまふ樣な事があります。

それから大果を目的として結實を求めます時の

方法としましては、一本の花梗中の結果數を減ずれば其の目的を助長する事が出來ます。卽ち好く大きくなりさうな果實六七顆をおきまして他を摘除するのであります。

次に尙栽培の仕方の二三に就きまして記述致します。

（イ）畑植

これは最も普通に行はれる方法でありまして、粗放で且つ多量生産にはこの方法に依ります。

畑一面に植ゑ付けて結實させて收穫するのでありますが毎年新しい苺を植ゑ付けて收穫する方法と數年間定植して收穫する方法とがあります。前者の全收量は後者より少ない樣ですが品質は優良なものを得られると云ふことゝ他の作物例へば葉菜類等を後作として栽培し一定の土地にて一年に一種類以上の作物の栽培が出來るといふ利益がありますので近年は此の方法によるものが多くなりました。數年間植ゑ放しの方法は二三年目に於て最も多量の收穫が得られます。四年目位からは收量が著しく減少しますから新しい苗と植ゑ替へる必要があります。

此の栽培方法では新苗を更新する年を除いては走蔓を全部除いてしまひます。この仕事を怠る時は親株の生命は甚だ短くなりますのみならず畑は殆ど足を入る所なき迄に走蔓が漫蔓しますので管理も不充分になります。更新する年には走蔓を保存して苗を作るのであります。

（ロ）石垣植

靜岡縣下でよく見受けられる栽培方法でありまして、一種の促成栽培とも見る可きもので又土地の利用とも考へられます。

石垣の間隙へ苗を植ゑ付けるのでありまして、なかなか面白いものであります。石垣の代りに屋根瓦を用ひまして傾斜地を利用するのも簡單で面

白いものであります。屋根瓦はべたに地上に張り付けます時は一角に小型の四角な空を得ます、それへ苗を植ゑ付けるのであります。

前二者共に南面或は西南面は傾斜した土地を撰ぶ必要があります。さうしますと、比較的露地としては早く結果が得られるのでありますし、除草の必要も殆ど無く、敷藁の用もないと云ふ理であります。肥料は充分に施さねばなりません。日除も強光で乾燥の強い時は必要でありますし撒水も場合に依りましては入用であります。

（八）鉢植

これは重に促成栽培を目的とする場合に行はれる方法でありますが露地で鉢植にして結果を見ますのも趣味のあるものであります。促成栽培としましては曾て記述しました溫床を造りまして鉢植の苺をその床内に入れるのであります。面し醸熱物は割合に少なくてよろしいのであります。即ち攝氏十八度位を適溫とされて居ります。

今醸熱材料の配合の一例を擧げますと左記の様であります。

紡績屑　三十貫　藁八貫　水八荷

そこで右の溫度内で六七十日間栽培しますと採果出來る様になります。

管理方法としまして、溫床そのものにつきましては略します。苺は開花中に撒水する場合は、水が花に掛らぬ様注意する必要があります。水滴が花に入りますと結果を不正型にする場合があります。敷藁の代りに鉢の中へ玉砂利を敷くこともあります。

以上三種に就きまして略述致しましたが、一般に御家庭での栽培はさう杓子定規にする要はありますまい。日光の射しこむ軒下とか樹下を利用して植ゑ付けるのも一法であります。

三、品　種

終りに苺の品種に就きまして二三記しまして御參考に供します。

（イ）　モナーク

性質强健で暑さにも寒さにも强い方でありまして走蔓も多く出ます。果實は赤朱色で光澤があり型は短圓錐で大きいものは一果二十匁に達するものもあると云ふ大果を產する種類でありますが、普通十匁位でありまして、甘味も强い方であります。

（ロ）　エキセル、ショア

草性强健で葉も大きい方でありまして、本種の特徵は甚だしく早生である事でありまず　產額、品質はあまり稱讃する程のものではありませんが香氣は高い方であります。要するに促成栽培用としての品種であります。

（ハ）　ビクトリア

古く本邦に輸入されたものでありまして一名達摩と稱して果型心臟型、朱紅色で東京の市場に澤山出て有名なものであります。風味はあまり良くありませんが豐產で性質强健でありますから、實用の栽培に適して居ります。

（二）　福羽苺

これは露地栽培用としましてはあまり適當のものではありませぬが、早熟性でありますことゝ豐產でありますこと卽ち採收期間が長いこと及果實が相當大きい等の特點を有してゐます。而し缺點としましては甘味が乏しいこと及漿液が餘り多くないと云ふ點等であります。

果實は色彩鮮紅を呈してゐまして長い圓形であります。

特に本種は夏期の早害と病害に注意を要します。